

第36回spcafe
29 Nov 2013

兄・木村資生

——分子進化の中立説を提唱した木村資生はどんな人だったか

ゲスト 木村 克美さん
(分子科学研究所 名誉教授)



木村資生博士は、長年にわたって、「理論遺伝学」を目指していた。生物の進化に関連して、種の中の突然変異遺伝子の動きを確率論や偏微分方程式を駆使して研究し、アミノ酸配列の実験結果(その後のDNAの実験結果)を良く説明できることを示した。1968年、英国の国際学術雑誌(Nature)にダーウィン進化論に対抗した「分子進化の中立説」を発表して世界を驚かせた。それから二十年以上にわたって国際的な大論争を巻き起したが、1992年に英国王立協会から「ダーウィンメダル」を日本人で初めて受賞(現在もアジアで唯一人)。この賞は生物学や遺伝学に百年以上の歴史がある。生物の進化を一言で表現すると、ダーウィン進化論は「適者生存」(環境に適したものが子孫を残していく)、それに対しキムラ進化論は「幸運者生存」(有利でも不利でもない突然変異遺伝子が定着して進化を起こす)とのこと。木村資生博士は、ダーウィンメダルの他、数々の国際賞を受賞した。英オックスフォード大学からウェルドン賞(1965)、フランス国家功績勲章(1986)、米国科学アカデミーから科学の進歩に対する「カーティン賞」(1987)、国内では学士院賞(1968)や文化勲章(1976)など。

今回のspcafeトークの内容は、(1) 小中学生時代にどうして「植物採集や数学」が好きになったか、(2) 第八高等学校時代にどうして「遺伝学」に興味をもったか、(3) 京都帝国大学時代にどうして「理論遺伝学」を目指すことを考えたか、(4) アメリカ留学時代や遺伝学研究所時代の話題など、(5) どんな趣味をもっていたか、など簡単にふれたい。

[日時]

2013年11月29日(金) 17:00～18:30

[場所]

クレイグスカフェ (名古屋大学理学部E館 1階)

予約不要・参加無料 (ワンドリンクご注文ください)

[お問い合わせ]

生命農学研究科・大場裕一 (052-789-4280/ oba@agr.nagoya-u.ac.jp) (ファシリテータ)